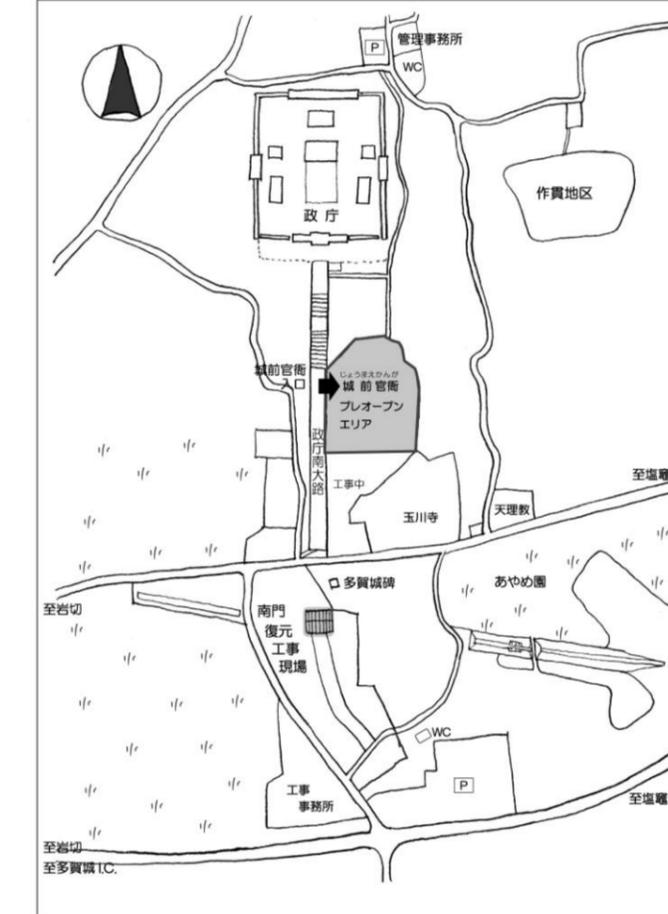
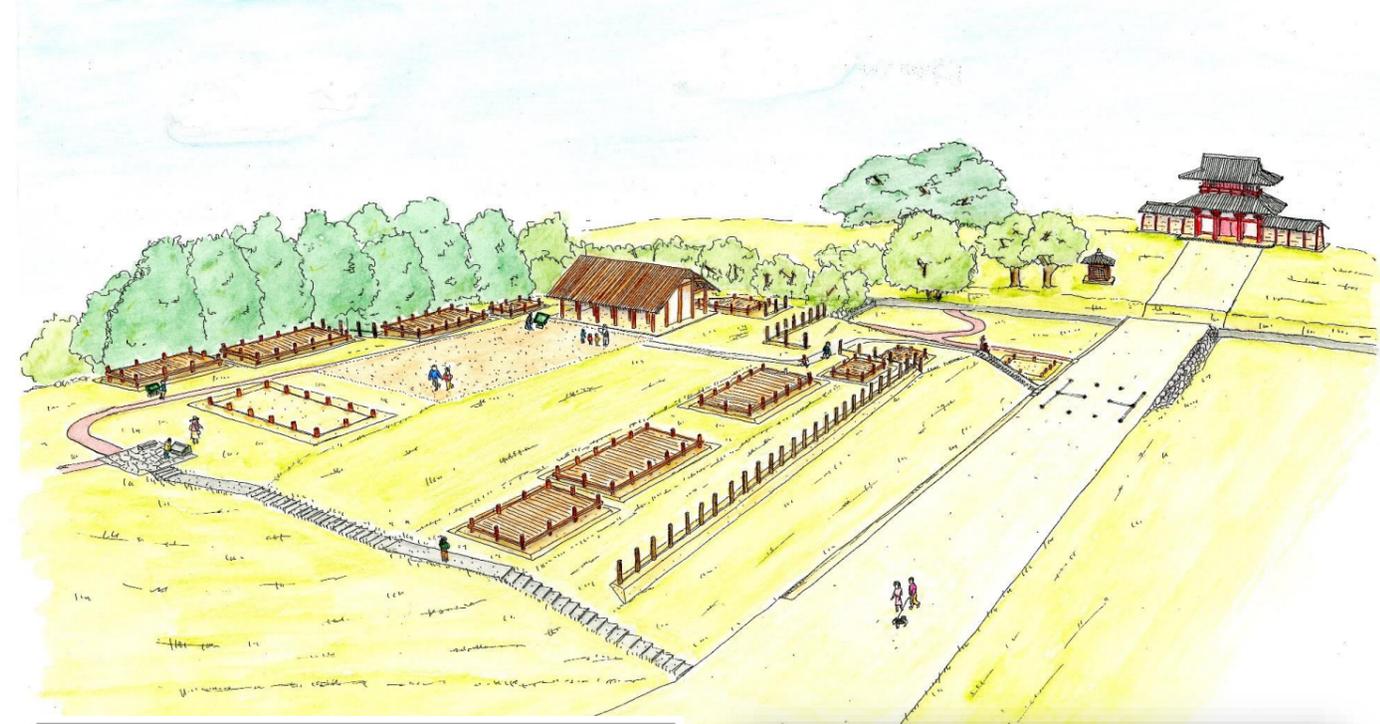




多賀城創建 1300 年記念

じょうまえかんが
特別史跡多賀城跡 城前官衙プレオープン

令和 4 年 (2022 年) 10 月 9 日 (日) 午前 10 時 30 分～



城前官衙推定復元図
政庁第Ⅱ期 (奈良時代後半) のようす

多賀城政庁の変遷

【第Ⅰ期】 神亀元年 (724) ～
おののきみまひと
大野東人による創建

【第Ⅱ期】 天平宝字 6 年 (762) ～
しげはらのあきまひら
藤原朝篤による大改修

【第Ⅲ期】 宝龜 11 年 (780) ～
こはりのきみあきまろ
伊治公昔麻呂の焼き討ち後の再建

【第Ⅳ期】 貞観 11 年 (869) ～11 世紀中頃
しげのくに
陸奥国大地震からの復興

距離と所要時間

外郭北東部	500m 徒歩 9 分	陸奥総社宮
六月坂地区	430m 徒歩 7 分	外郭東門跡
大畑地区	620m 徒歩 11 分	作貴地区
政庁跡	400m 徒歩 7 分	多賀城碑
外郭南門跡	450m 徒歩 8 分	外郭南東隅 (あやめ園)
国守館 (陸前山王駅前)	1.5km 徒歩 30 分	南北大路 (温別モニュメント)
高崎遺跡	550m 徒歩 10 分	東北歴史博物館
多賀城廃寺跡	350m 徒歩 6 分	

編集・発行
宮城県多賀城跡調査研究所
多賀城市高崎 1-22-1

発行日
令和 4 年 (2022 年) 10 月 9 日

- ### プレオープンセレモニー 次第
- 1 開式挨拶
 - 2 来賓祝辞
 - 3 来賓紹介
 - 4 テープカット
 - 5 和太鼓演奏 [和太鼓 Atoa.]
 - 6 復元整備施設紹介

宮城県多賀城跡調査研究所

城前官衙

みどころマップ

城前官衙は、南門から政庁に向かう政庁南大路の東側丘陵に置かれた役所です。発掘調査により、奈良時代から平安時代まで役所として使われていたことがわかりました。

遺跡整備では政庁第Ⅱ期（天平宝字6年（762）～宝亀11年（780））の姿を再現しています。この時期は多賀城に鎮守府（兵士などを指揮監督する軍事担当の役所）が置かれており、城前官衙がその鎮守府の仕事を行っていた場所だと考えられています。

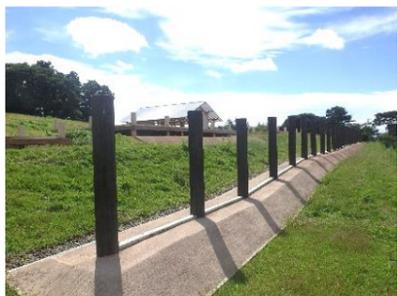
♪ 城前官衙の構成

第Ⅱ期の城前官衙は、中央の広場を囲むように役所建物が整然と建ち並んでいました。

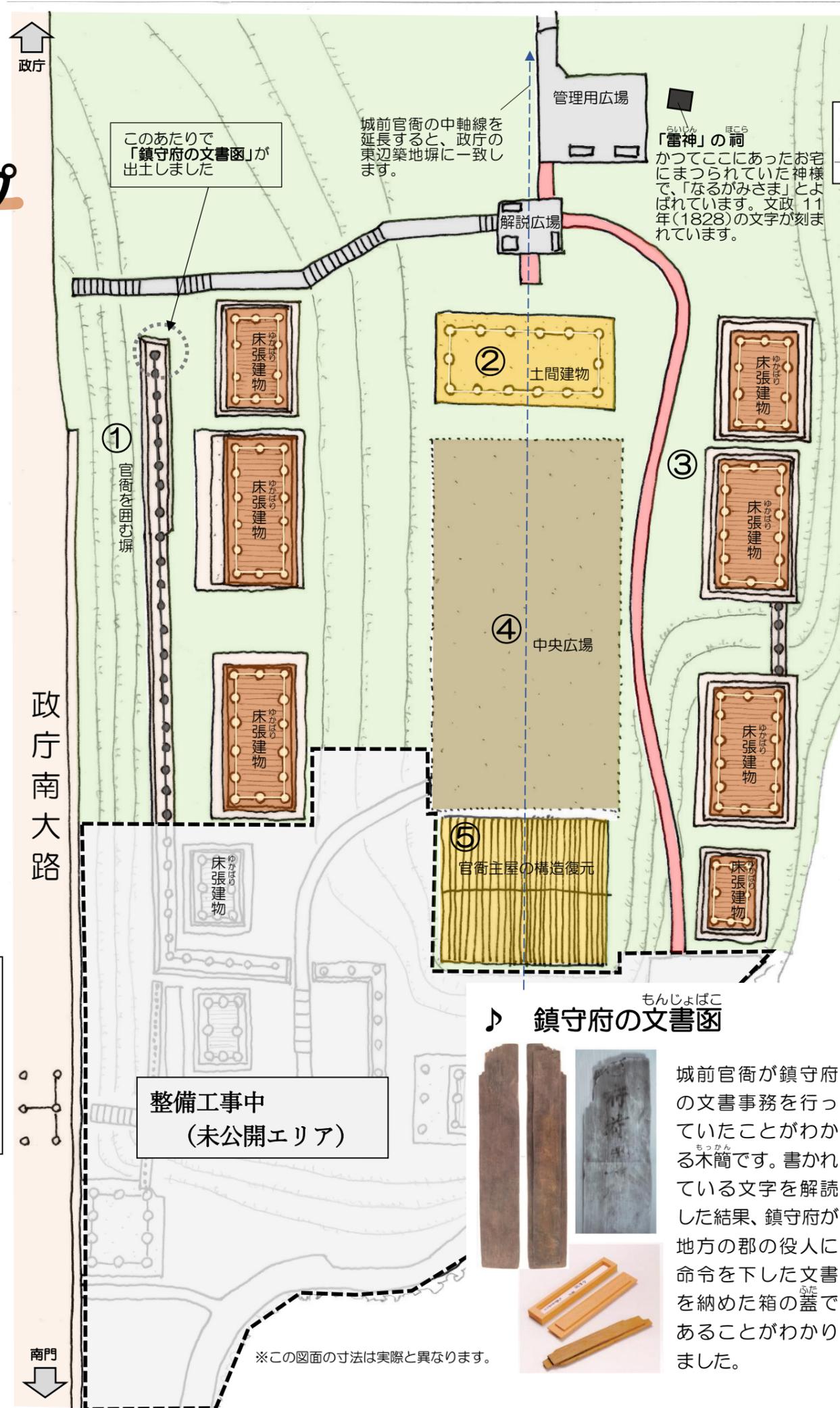
城前官衙の主屋は南寄りに建てられ、その北側が広場になっていることから、この役所は政庁のある北側が正面であったと考えられます。

発掘調査では、官衙全体に火災を受けた痕跡がみつかり、政庁が焼かれた宝亀11年（780）の伊治公皆麻呂の乱により、城前官衙も全焼したと考えられます。

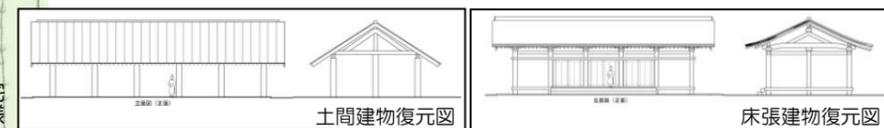
① 官衙を囲む塀



官衙の西側、政庁南大路に面していたところは、塀で囲まれていました。塀は、太さ25cmの柱が2.4~3.0m間隔で立てられ、その間は板壁でふさがれ、上には屋根がかけられていたと考えられます。再現工事では、塀の柱が立ち並んでいた様子を再現し、板壁と屋根は省略しています。



② 土間の建物と、③ 床張りの建物

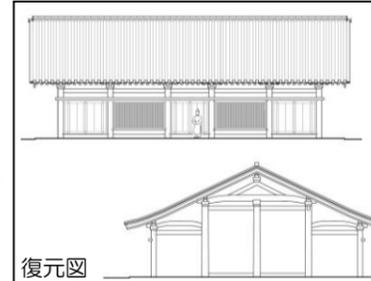


広場の東西に4棟ずつ並ぶ建物は、床に板を張るいわゆる床張りの構造でした。いっぽう、広場の南と北に位置する建物の床面は土間でした。床張りの建物は、土間の建物とは違う使われ方をしていたと考えられます。整備では建物の壁や屋根は省略し、当時の建物の柱の位置や太さと、床面の様子を再現しています。

④ 中央広場

城前官衙の中央部分には建物などがなく、広場となっていました。鎮守府が胆沢城に移された後の時期になると、この広場はなくなり、城前官衙全体に建物が建てられるようになりました。このことから、この広場は鎮守府の仕事に必要とされていたのではないかと想定されます。

⑤ 官衙主屋の構造復元

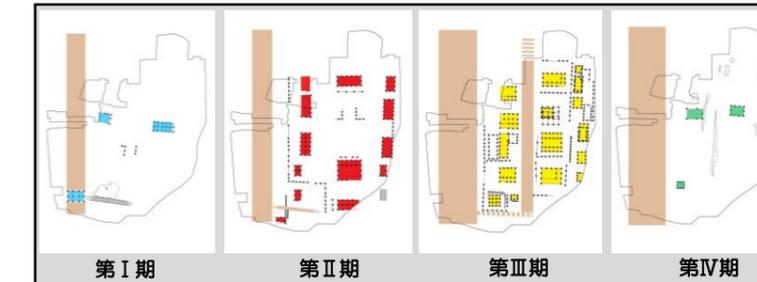


城前官衙の主屋の柱、梁、組物、小屋組、垂木などの構造を復元しています。復元に当たり同時代の建物である法隆寺食堂の構造を参考にしました。

建物の内部は、中心の「身舎」に南北の「廂」が付く広い空間で、屋根は瓦葺であったとみられます。

♪ 城前官衙の変遷

政庁の変遷にあわせて、城前官衙の建物も建て替えられていたことがわかりました。



♪ 鎮守府の文書函



城前官衙が鎮守府の文書事務を行っていたことがわかる木簡です。書かれている文字を解読した結果、鎮守府が地方の郡の役人に命令を下した文書を納めた箱の蓋であることがわかりました。

整備工事中
(未公開エリア)

※この図面の寸法は実際と異なります。